



「困った」を抱える子の保育情報誌
PriPriパレット <2021年・春号>

POINT 5
自分で作った満足感をもてるように

保育者がすべてを手伝うと達成感が得られません。技法や材料を子どもに合ったものに変えることで、製作のスタート地点を変え、同じ仕上がりを目標せるように支援しましょう。



たんぽぽが
 咲いたよー!

力が弱くても押しやすいスタンプが
 用意しましょう。工程によって
 コーナーを分けると子どもが混乱しま



POINT 1
製作

材料にさわれない、道具をうまく使えないなどの理由から、製作に苦手意識をもつ子どもたちがいます。子どもそれぞれの苦手が、ある子の作り方を中心に、クラスみんなが楽しめる製作と支援のポイントをご紹介します。

制作/みさきめい 写真/中島里小美(世界文化ホールディングス)
 モデル/五條千衣 星乃々 和田虎子 藤田真月 取材/文/こんべいとふらわーと



P.18



子どもの「やりたい」
 引き出す支援を

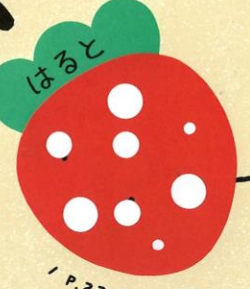
発達に課題のある子は、不器用だったり、感覚の過剰によって材料にさわられるのを嫌むりする場合もあります。集中製作活動に不安を感じたり、集中力が持続しにくかったりする子どももいます。保育者は、子ども一人ひとりの特性に合わせた支援を行うことが必要です。製作のモチーフに親しみを感ぜられるように、前もって絵本や歌を楽しんでおく、実際に物を見ておく、などの導入も大切。それにより意欲的に活動に取組めるようになります。

初めて使うものに抵抗感もちやすい子は、自由あそびのなかで保育者と一緒に使ってみるのも効果的。「あ、これ知ってる、という気持ちがある、安心感につながります。どうしても苦手な技法や材料は、ほかのものに替えて回数減らしたり。でも、そうして「できた」という達成感を味わうことが、次への意欲となるでしょう。

POINT 1
ひろがる

一 苦手さへの手だてから

力を入めるのが難しい
 手先が不器用
 「自由に」描けない



P.22

POINT 3
写真や絵で視覚的に示す

ことばで説明を聞くよりも、目から入る情報のほうが理解しやすい子がいます。写真や絵で視覚的に作り方の手順を示すと、取り組みやすいでしょう。



見せよう

POINT 2
完成見本、道具や材料を明確に示す

何をしたらいいか混乱してしまう子には、工程ごとに使う道具や材料を提示して、少しずつ取り組めます。また、完成見本を示すことで、活動の目的がイメージしやすくなります。



【教えてくれた人】
 河井優子 かわいゆうこ
 武蔵野東第一・第二幼稚園特別支援教育コーディネーター。園の子どもの特性を把握し、保護者支援や保育者のサポートを行っている。

POINT 1
集中できる環境を整える

注意が散漫になりやすい子には、コーナーを区切ったり、掲示物を外したりして刺激を減らします。座席は、ほかの子の姿が目に入りやすく、保育者にも近い、最前列の端がベストです。

保育業界初！発達支援の定期誌『PriPriパレット』
 保育雑誌ナンバー1『PriPri』から誕生！業界”初”、発達障害など「困った」を抱える子のための保育情報誌
 本園の**特別支援コーディネーターの河井優子先生**が、製作の苦手な子が楽しめるアイデアを紹介しています

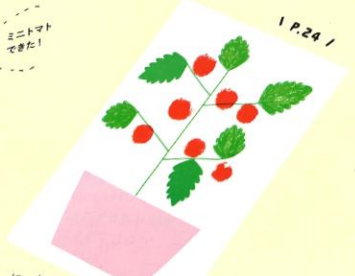


「困った」を抱える子の保育情報誌
PriPriパレット <2021年・夏号>



POINT 3
クラスの子と製作のベースを揃える

製作過程で遅れると、「できない」「もうやらない」と諦めてしまう場合があります。クラスの友だちと、同じようなベースで進められるように工夫しましょう。



不器用だったり、集中力が持続しなかったりすると、製作の細い工程を最後までやり遂げるのが難しい場合があります。クラスの友だちのペースに合わせ、クラスで進められるように工夫しましょう。また、製作プロセスを小分けにして、カードなどで視覚的に提示するよう、ステップアップできるように工夫しましょう。保護者が適切なサポートを認めるように、先生と連携して進めましょう。

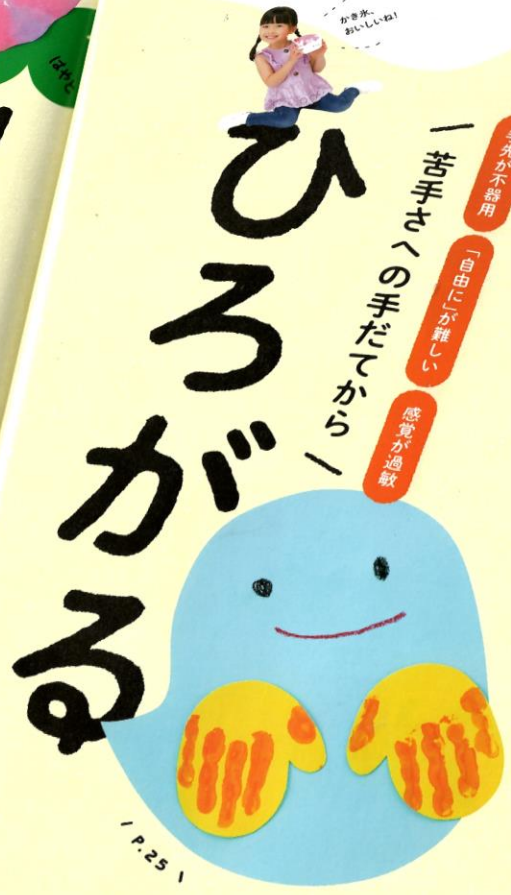


製作

SUMMER
夏
 VOL.2

作り上げる満足感や達成感が得られる支援を

不器用だったり、集中力が持続しなかったりすると、製作の細い工程を最後までやり遂げるのが難しい場合があります。クラスの友だちのペースに合わせ、クラスで進められるように工夫しましょう。また、製作プロセスを小分けにして、カードなどで視覚的に提示するよう、ステップアップできるように工夫しましょう。保護者が適切なサポートを認めるように、先生と連携して進めましょう。



「自由」が難しい
 感覚が過敏
 手先が不器用
 一苦手な子の手だてから



【教えてくれた人】
 河井優子 かわい ゆうこ
 武蔵野東第一・第二幼稚園特別支援教育コーディネーター。在園するすべての子どもたちの特性を把握し、保護者支援や保育者のサポートを行っている。

クラスでの製作を支援するポイント

POINT 1
興味を取り入れる

支援が必要な子は、新しいものや興味のないことに拒否感を示しがちです。好きなことに関連したテーマを製作モチーフにするとういでしょう。



POINT 2
完成品を示してからスタートする

見通しがもてない不安を感じる子が多いので、完成品を示してからスタートします。ゴールや道筋を丁寧に伝えることが大切です。

武蔵野東第二幼稚園
 東京都武蔵野市にある武蔵野東第二幼稚園では、50年以上にわたり、自閉症児と定型発達児がともに学ぶ「混合教育」を実践し、日本のインクルーシブ教育の模範的存在となっている。

保育業界初！発達支援の定期誌『PriPriパレット』
 保育雑誌ナンバー1『PriPri』から誕生！業界「初」、発達障害など「困った」を抱える子のための保育情報誌
 本園の**特別支援コーディネーターの河井優子先生**が、製作の苦手な子が楽しめるアイデアを紹介しています



わたしが好き
あなたが好き
夏



気持ちがひとつになるとき

自閉症児と定型発達児がともに育ち合う教育を行っている私たちの幼稚園。夏休みに、園ではチームごとにいくつものゲームに挑戦する「サマーアドベンチャー」を企画しました。

子どもたちは、チーム全員が同じ手を出して勝たなければ先にすすめない「じゃんけんマン」を前に苦戦。相談して出す手を決めてもなかなか気持ちが揃いません。出す順番を何度も相談しているうちに、「みんなで気持ちを合わせよう」「ひとつになろう」と考え始めたのでしょうか。子どもたちの距離はどんどん近くなり、ついにはこんなに小さくなって……。気持ちが形に現れた後ろ姿が、なんとも愛おしい一場面でした。この後ようやく勝てた子どもたち。また一歩、友だちとのつながりが深まったようです。

武蔵野東第二幼稚園

東京都武蔵野市にある武蔵野東第二幼稚園では、50年以上にわたり、自閉症児と定型発達児がともに学ぶ「混合教育」を実践し、日本のインクルーシブ教育の草分け的存在となっている。